



まちファン

2号

2004年4月15日

まちづくり活動を 横糸でつなぎます。

「縦割りではなく横の連携を！」という声をよく聞きます。縦割り＝行政をイメージしますが、私たち市民活動はどうでしょう。横糸で紡がれているのでしょうか？ 福祉・環境・子育て・人権等、多様な活動がうまく連携すればもっと活動が広がるのに、と思うことがよくあります。

連携を阻むものの一つに「こだわり」があると思います。市民活動はこだわりから発し、こだわることで活動も充実していきますが、こだわりとは否定という一面も持つ両刃の剣。目指していることは同じなのに、少しの違いをのみ込めず連携ができないことって経験ありませんか。「こだわり」と上手につき合うことが横糸の鍵です。

まちファンが助成金獲得と個々の活動の強化だけではなく、公開審査会、中間発表会、最終発表会が交流と学びの場となり、更に連携にまで発展していく横糸の役割を果たせたら素晴らしいと思いませんか？



contents

- 2 公益信託「高知市まちづくりファンド中間発表会」を開催しました。
- 3 プレゼンテーション
「まちづくりははじめの一步」コース
- 4 「まちづくり一歩前へ」コース
- 6 中間発表会アンケート
まちづくり活動相談コーナー
「まちづくりトークCafe」をご存じ？
- 7 まちづくり市民講座
「まちづくり」って、そういうことだったんだ！
- 8 中間発表を終えて
今後の予定

公益信託「高知市まちづくりファンド
中間発表会」を開催しました。

～テーマは交流～

昨年8月2日の公開審査会で助成が決定した14事業が開始されて5ヶ月ほどが経過した1月24日に、公益信託「高知市まちづくりファンド中間発表会」が開催されました。今回の発表会は、団体間の交流を中心に、和気あいあいとした雰囲気の中で進行了しました。

中間発表会の流れ

1 プレゼンテーション



各事業の進捗状況とともに、工夫している点、困っている点などを3分間で発表。参加者全員に、各事業についての質問・良い点・提案・その他の意見などを自由に付せんにも書いてもらう。

2 付せん貼りタイム



記入済みの付せんを、団体ごとに貼ってもらう。

3 意見交流



運営委員が団体ごとに貼られた付せんの内容を紹介し、参加者との意見交流を実施。

委員のコメント



運営委員長：卯月 盛夫 (早稲田大学教授)

中間発表の目的は、活動の中から出てきた良い点や問題点を披露していただき、他のグループと情報交換や交流をすることです。たくさん意見を出していただいたほうが、次のステップにつながると思いますので、ぜひご協力をお願いします。



運営委員：海老塚 和秀 (五台山竹林寺住職)

委員をしてうれしいのは、まちに人の顔が見えるようになったことです。「このまちにはあの人がいる。あそこにはあの人が頑張っている」と、まちに活躍する人の顔が見えてきた。ファンドをご縁に、今後そうした人と人とのつながりが結ばれていったらいいと思います。



運営委員：木村 重来 (元高知市市民生活部長)

昨年3月まで行政職に身を置き、ファンドの制度を若いスタッフと一生懸命つくったという経過があります。公開審査会では皆さまの企画をご紹介いただき、その後、どういう取り組みをされているのか非常に楽しみです。



運営委員：波井 加代子 (元よさこい高知団体ひとりひとりとやくボランティアコーディネーター)

「わくわく感」のあるまちづくりを応援したい。困ったり、工夫したり、助け合ったり、感謝したり…人と人がつながって「わくわく」輝くまちづくり。今日は私もわくわくしながら、みなさんの中間発表を聞きたいと思います。



運営委員：半田 雅典 (高知県ボランティア・NPOセンター)

助成団体の皆さまのご活躍を、チラシや新聞でも拝見しております。今日の中間発表では皆さまの成果やプロセスを聞けるので楽しみです。また、高知県ボランティア・NPOセンターとして何かできることがあるか、考えてみたいと思います。



運営委員：田岡 真由美 (婦 相愛)

今回は、皆さんが実行されているいろいろな活動の中間発表ということで、とても楽しみにしております。皆さん貴重な時間を割いて来てくださったので、ぜひ今後の活動のヒントを掴んで帰っていただきたいと思います。



運営委員：増田 和剛 (高知中・高等学校教諭)

半年経って、それぞれ苦労された部分があると思いますが、活動している方が気持ちの上でどれだけ楽しくやっているのか、見える楽しさではなく心の部分を聞かせていただきたいと思います。



運営委員：堀 洋子 (社) 高知県建築士会)

日頃は建築の分野でまちのハードを作る仕事をしています。人のなりわいがあって、まちづくりがあると思います。今日はまちづくりの活動をされている皆さんが、和気あいあいと中間発表していただければうれしいです。

今後の予定

第1回最終発表会 平成16年7月31日(土)

第2回応募用紙配付 平成16年4月27日(火)～

公益信託「高知市まちづくりファンド」とは…

2003年4月に施行された「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、公益的なまちづくり活動を行う市民団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3千万円を出捐(しゅつえん)し創設。審査を公開にすることで、透明性の確保を図るとともに、市民団体同士の交流を目的としています。この制度で多くの人にまちづくりに関心をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営を目指しています。

「まちづくりはじめの一歩」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 定額5万円(活動事業費が5万円未満の場合は、全額助成)

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。

助成金額 活動事業費の3/4以内で、上限30万円。

審査方法 公開審査会において、応募団体は活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

Presentation

1 第1回大高坂松王丸祭 一高知市開発の祖一 「第1回大高坂松王丸祭」実行委員会



昨年、第1回大高坂松王丸祭を実施した。一弦琴、ハンドベル、歌、お琴の演奏と、もちつきがあった。皆さんにおもちと鉛筆をお土産に配った。また、大高坂の資料、写真、本、戦前の高知市の地図などを展示した。今年も第2回目を、去年よりもっと盛大に行いたいと思っている。

意見交換

Q 今後の活動について、どのような工夫を考えているか。

A 今年は実行委員会だけの主催ではなく、例えば高知市などの行政に、共催という形で働きかけていきたい。社会科の教科書や年表、郷土のところに載っているのも、顕彰もしたい。

- 以前新聞で読んだ。
- 第2回からどう展開していくか…楽しみ。
- 大高坂松王丸の顕彰のみでなく、中世以降の郷土の歴史についても活動を広げるなど、次のステップを期待。

2 閉じこもらないで、みんなで“和”になって探そ!! 作ろう!! “手作りの作品展” つどいの和あざみの



この作品展を思いついたのは、障害者がどうしても閉じこもりがちになるから。子どもからお年寄りまで、障害のある人、リハビリで一生懸命頑張っている人の趣味を一堂に集めた展示会をすることにより、仲間づくりをし、趣味を見つけていただきたい。そこで友達の輪をつくり、元気な薊野をつくっていききたい。

Q 作品展は何回開催したのか、どれくらい、どういう人が集まったのか。

A 2月の14、15日の2日間行い、10団体の参加を予定。お手伝いくださる方は15、16名ほどいるが、障害者は私のみ。障害を持っている他の人にも、「わたしにもなにかできる」と思う仲間が一人二人と出てきてほしいので、いろいろなところに声を掛けている。

- 手作りのポスターは個性があっという、既存の団体とのネットワークを工夫して仲間づくりをしてみたい。

3 住み良い地域づくりをめざして 木の丸の里愛好会



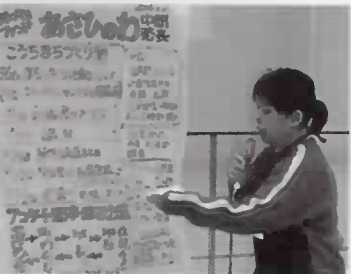
町内にある親水公園の池をきれいにし、1つの池にはもち米を植えた。古代式餅つき農法でつくったもち米は、おいしい炊き込みご飯になった。来年は、家庭の餅つき器でつけるくらいの収穫をしたいと話している。もう1つの池には、スイレンや古代ハスを植え、フナを放している。ネット張りなどの作業をしながら、これから楽しんでいきたいと思う。

Q 活動を通じて、地域とのつながりに変化があったか。

A 大きなスーパーへの通り道なので、町内全体の注目の的になり、作業をするときも一人二人に声を掛けたら20人ぐらいはさっと集まって一緒に作業してくれる。町内以外の人も大変関心を持ってきており、皆さんの協力体制が、つどいの上でできた。

- 活動を地域全体の中に生かしているのがすばらしい。
- 写真等あれば、記録として残して欲しい。
- 活動に広がりが見えている。

4 旭街のまちづくり（はじめの一步編） あさひのわ



アンケートは、1月にある程度作成した。配布、回収単位として、小学校区域を考慮しており、最小の単位が班単位。「本宮川の水辺と蛍の会」岡田さんの紹介で、町内会に協力いただき、配布できるようになった。町内会長から班長経由で、各班で5枚。全数調査にはならないが、調査対象の約47%が把握できる。

Q アンケート調査で困ったことは？ 大学などには協力してもらえないのか？

A 調査内容では、聞きたいことがいっぱいあって絞り込むのに困った。まず高齢者を対象にアンケートを2枚、短い時間で書きやすく、集計しやすい形にした。大学の先生には、来年調査結果を基にボランティアを立ち上げるためのアドバイスをいただくのに会う予定をしている。

- 積極的に学習する姿勢が素晴らしい。
- プレゼンテーションの資料が読みやすい。
- アンケートをどう活かすかを考えながら進めて。

5 離乳食教室 「トマトの会」一食育を考える地域活動栄養士の会



離乳食教室を10月～12月に連続で3回開催した。「小さいときから健康な体をつくるのがどんなに大事か」の基礎的なものを分かってもらおうと、冊子を作り、ベビーフードの展示するなど工夫した。アンケート結果は、参加者全員が100%「満足」だった。参加者はそれぞれ、14名、12名、10名。定員20名だったが、苦勞したのは託児。今は託児が無いと参加してもらえないことが分かった。

Q プレスや広報をうまく使えていたと思う。ほかのグループの参考になると思うので、方法を教えてほしい。

A 市町村の健康づくり課に置いていただいたり、実際にサークルに連絡を取ったり、新聞社にもお願いして、載せられるところには載せていただいた。

- 当初の企画時より多くの取り組みをしている。
- アンケートをとっているところがとてもよい。満足度100%もさらにスゴイ!!!
- せっかくの活動。続ける方法を考えて。

「まちづくり 一歩前へ」* コース



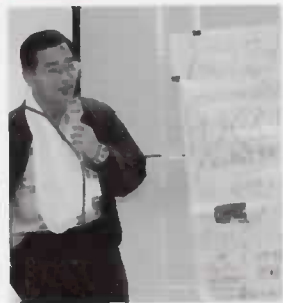
Presentation

1 公園を拠点とした地域福祉活動の活性化を目指して [平田団地公園愛護会]



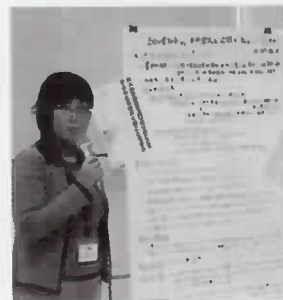
5月開催予定のイベントを残し、すべて順調に消化してきた。予定外の事業として、周辺地域の園外保育の場として公園を提供し、親ぼく、交流に役買うなど、地域福祉の輪が着実に広がりをみせている。今回の特徴は、推進母体である当愛護会組織の全面的な刷新、改善。会費制、会員制度を導入し、目標の5倍の資金と会員数が獲得できた。東京の民間会社の福祉事業団による地域福祉活動への支援・助成事業にもチャレンジ。東京ドームシティーおもちゃ王国の視察もした。残念なことは、イベント開催時における事務所の開設予定が未執行に終わったこと。

2 炭焼き情報ネット館 [高神炭焼塾]



10月20日に無事、約6帖の大人の秘密基地が完成し、「かくや姫のお宿」と命名。12月21日には盛大な落成ができた。いろいろも構えてあり、しし鍋や竹の子という、はやりのスローフードを来た人に食してもらい、和やかな催し物ができている。次の目的は、里山保全。頂上にある長宗我部時代の神田南城一帯で、里山保全の動きがあり、先だってそこに行く仮遊歩道を作った。炭焼き小屋では、木炭を5回、竹炭を2回作った。今、3回目の竹炭を入れている。出来た竹炭はいろいろに使わせてもらっている。

3 橋本知事と平井雷太氏の公開インタビュー「大人が学習者でありつづけることで子どもたちは多くのことを学ぶ」 [はっぴーねっと]



10月26日に竹林寺をお借りして実施(定員120名のところ88名参加)。工夫したのは、事前にいろいろな方の教育に対する問い、意見をまとめて知事に届け、通信という形で出したこと、駐車場が遠いので車で送迎したこと。平井氏が考案したインタビューゲームのルールを、持ち帰って活用してもらえるようにした。良かった点は、土佐の教育改革の柱を詳しく知事の言葉で聞くことができたこと、障害児の今後について不安を抱えている母親の質問をみんなに知ってもらえたこと。今後の課題は、聴講者集めとビデオのダビング料金の工面。

4 ホタルが飛ぶ蛍橋をめざして！ [本宮川の水辺と蛍の会]



この活動を地域の住民によく知ってもらうための掲示板づくりが目的。7つの町内会と一緒に活動をし、掲示板を町内会のごみステーションとサティ内に設置。年6回ほど掲示の中身を変えながら、住民と一緒に、何とかホタルが飛ぶ蛍橋を復活させたいと思っている。掲示板を見た俳句グループからの申し出で、2首ずつ俳句を掲示板に紹介し、地域の文化運動も推進している。掲示板の材料も、高知の品物で地元の大工さんに頼んで作っている。こういう形を通じて、地域の環境を良くしていこうと活動している。

意見交換

Q 来年度の見通しは？

A 自治会の資金提供の有無、まちづくりファンドの助成対象となるか、それにより資金を募る方法を考えなければいけない。公園は子どももの。大人の都合に左右されてはいけないと思うので、どのようなことがあっても引き続きやっていこうというのが基本方針。

Y
V
E
新しい町内会(有志型)のモデルとして期待。
まちづくりの核としての公園利用をもっとすすめて。
真剣に取り組んでいるのが印象的。

Q 地元や小学校、ほかの組織とのつながりは？
今後、どういふところとつながっていききたいか？

A わたしたちの組織はどなたが来てくださっても自由。小学校の炭焼き体験学習も計画中。今後、全国的な働きかけをして、いろいろな形で、竹を生かした、あるいは里山づくりを目指した団体との交流を図っていきたい。

Y
V
E
大人の夢が、形や活動につながっている。
皆が楽しみながら活動を進めているのが何より。
里山保全という大きな目的に向かってがんばって。

Q 仲間は増えたか。

A 「子育ての会があったら参加したい」と電話をもらったし、実行委員に20名ほどが新たに加わった。グループとしてこれからもっと広がれば、と思っている。

Y
V
E
車での送迎など、工夫をしたのがよい。
もっと参加者が多いと良かった。
ビデオの活かし方を考えて。

Q 掲示板は、ホタルが飛ぶ蛍橋を目指す側の掲示情報のみの、一方的なもの？ それとも地域住民からの情報も取り上げたコミュニケーションを図るもの？

A 確かに掲示板という機能は一方通行だが、町内会の中で活動しているので、反応が町内会長にすぐ返ってきて、われわれに返ってくるという双方向性を確保している。内容的にはあくまでも環境、ホタルが飛ぶ蛍橋が地域の環境目標で、地域住民の横のつながりがメインです。

Y
V
E
今後の掲示板利用方法に期待。
地域住民や企業と連携できているのがいい。
ゴミステーションで環境掲示板と近い組み合わせ。

5 ぶらっとうち(公共掲示板) あなたの書き込み応援します!
[特定非営利活動法人 ハート・リンク・コミュニティ]



県民が情報発信ツールを使うことにより、いろいろな情報を交換して、それぞれの活動をもっといろいろな意味で大きくしてもらい、広がりを持ってつなげていってもらうことが目的。第1回「ぶらっとうち(公共掲示板)」の使い方講習会を行い、助成金の半分を使用。10月から毎週金曜日、はりまや橋商店街でも教えている。最近では、ブログ(ホームページ等作成システム)を広げる活動をしている。また、いろいろな方面の人とも活動している。ブログの簡単な使い方セミナーの開催を、今年後半の目的としている。

Q 受講者はどれくらい集まったか?

A 定員が30名のところ、最終的に26、27人になった。受講者2、3人に対して、インストラクター1人というかなりきめの細かい指導だった。何名かは「ぶらっとうち」への登録もしてくださった。

Q 講座参加者の年齢・職業・動機を聞きたい。

A 大体が中高年の方で、自分がメッセージを書きたいという動機の方がほとんどだった。

6 高齢者の介護予防・痴呆予防の為に「いきいき生活とゆうゆう菜園」
[NPO法人 訪問理美容ネットワークゆうゆう]



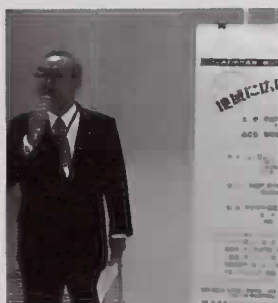
地域の高齢者とのネットワークづくりも含め、家庭菜園を始めた。最初に、借りた畑で、メンバーの方にうちのシステムや、活動内容を分かってもらうため、イモやヤーコンを植えて、子どもたちも含めて収穫をし、食べた。問題点は、菜園農地の確保。なかなか農地を貸してもらえない。また、会員の募集。高齢者に声を掛けたが、子ども連れの若い夫婦の方が遊びがてらに来てくれた。PRして着実にやっていきたい。

Q 募集する際のPR活動は? 参加者数、高齢者の人数は?

A 65歳以上の方が2名いる。会員募集をしたが、具体的に畑が決まらなかったのが案内ができなかった。やっと土地を確保でき、案内も出来るようになったので、一般会員の確保はこれから。

VOICE ■高齢者がどうすれば参加しやすくなるか、もっと工夫を。
■募集方法、活動内容を明確にするとよりおもしろくなるのでは。

7 設立10周年記念事業「できる時に、できることを、無理せず、楽しく」
[特定非営利活動法人 地域サポートの会 さわやか高知]



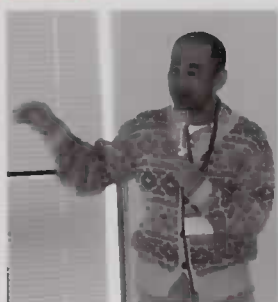
一団体の周年行事にしたいという気持ちで「地域に広げよう、支え合いの輪」というテーマを設定し、2月22日、追手前高等学校の芸術ホールで開催。内容は3部構成で、第1部は、10周年セレモニー。第2部は、若草養護学校の「結ぶ会」という保護者の会が取り組んでいる、障害児の子育て、社会参加、地域づくりをテーマに行う。第3部は、さわやか寄席。女性介護講師、田辺鶴英さんの実体験を基に作った講談。それから、落語家の春風亭昇輔くん。高知市内の養護学校の卒業生で、東京の落語会で活躍を期待されるはなし家。

Q 準備で苦労しているところは?

A 会員は仕事が忙しく、イベント担当者にどっと荷が掛かってくることと、人集め。600席を埋めるとなると大変。たくさんの助成金をいただきながらけしからん、と怒られるかも分かりませんが、資金が不足している。

VOICE ■ニーズをくみとって新しい動きへつなげて。
■ぜひ「報告書」を発行してほしい。
■キャリアが光っている。

8 地域の未利用地(障害者施設空地)を活用した機能回復、バリアフリー、循環体験の三位一体農園整備事業
[NPO法人 ゆうきりサイクル高知]



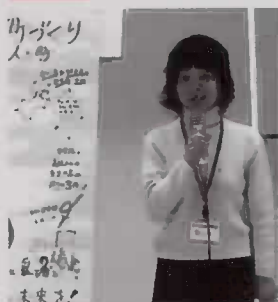
池地区にあるアドレス高知の2反ぐらいの敷地で、去年の夏から取り組みを始めている。さら地に土を入れていく作業が、今年度の大きな目的。やがて畑ができていこうと思う。活動の経過は、去年の9月から1回の割合で、ミーティングを行っている。これまでにニュースを1回発行して、三里地区2,000世帯に配布した。12月には「飛び出せガーデニング」を開催。ガーデニングの可能性というテーマで、園芸療法士の石井先生に話をいただいた。助成金で軽トラックを25万円で購入した。

Q 地元の反応は?

A 三里小学校の関係者には話をして了解をいただいている。春に植え付け祭として、作物の植え付けを段取りしていくが、そのあたりから本格的にかかわっていただこうと思っている。特に、小学校の保護者と一緒にやっていこうと考えている。

VOICE ■行政との取り組みをもっと聞きたい。
■物質的なもの(軽トラック)に助成金を使うのは、と思ったが、確実な活動におどろいた。
■機能回復訓練を考えるとならハビリ学校3校も考慮に入れては。

9 YAブックガイド『よんどく!?!』増補改訂版作成出版
[特定非営利活動法人 高知こどもの図書館]



当初は来夏発行の予定だったが、問い合わせが何件か来たので、急ぎよ早めた。中学、高校生編のページが好評だったので、さらに執筆を依頼したところ、前の3倍もの原稿が届いた。16ページ増やし、11月末に無事発行できた。香川、徳島の図書館や学校からも買ってもらい、少しずつ輪が広がった。図書館でいろいろな人と本の話をするので、輪が広がり、地域のコミュニケーションの場となる。そこからまちづくりができるのではないかなと思う。そのきっかけとして、この『よんどく!?!』は力を発揮できると思う。

Q PR、販売ルートに工夫している点は?

A 外出時には持参し、紹介させていただけるときはしているほか、取材依頼をして高知新聞に載せていただいた。図書館や中学、高校に「前回は寄贈させてもらったが、今回は予算上大変厳しいため、ぜひお買い上げいただきたい」と、案内を送った。公立の学校への案内は、県教委と市教委のボックスを使うといった、通信費をかけない営業努力をした。

VOICE ■活動の目的がはっきりしていて参考になった。
■読者の子どもたちが参加して作ることができたのがよい。
■子どもの本離れにストップをかけ、読む楽しさをおしえる素晴らしいこと。

公益信託高知市まちづくりファンド 中間発表会アンケート集計結果

① 中間発表会を何で知りましたか。

運営委員会からの案内 (11)、ホームページ (1)、センターだより「えぬびいOh!」(1)、その他 (2)

② 期待度を100%とすると、今日の満足度は何パーセントでしたか。

98% (1)

■ 2%はもっと苦勞話を聞きたかったこと

95% (1)

80% (7)

■ ファンド助成先のNPO事業当事者として参加をしているので。

■ 他団体の皆さんの発表があまりにすばらしいので、私のことは苦勞に思ってしまうから。

■ 今後の活動に参考になる要素をいくつか学ぶことができたので。

■ 前回よりは、なごんだ雰囲気になってきたように思える。

■ 少し時間不足の気がしました。

■ 発表者の方の思いなどがわかり充実した会でした。

■ 出演者が一生懸命だった。

70% (3)

■ 最後まで参加できなかったですが、プレゼンの段階ではこのくらいです。

■ 良きにつけ、悪きにつけ、時間に厳しいので、話かとぎれる場合がある。他団体の発表(資料も含めて)が参考になる。良いところはマネよう!!

60~40% (1)

■ 発表団体の量と時間的制約との関連による本質が不明、曖昧なように思えた。

その他(1)

■ まず、3分のプレゼンでは十分に主張できていない。質問事項は55枚もある。せめて2分でも延長すれば補足説明は少ななくてすむ。

③ 参加されたあなたの立場をお教えください。

発表者 (6)、発表団体の一員として (3)、まちづくりに関心のある一市民として (4)、その他 (1)

④ あなたの年代を教えてください。

40才代 (8)、50才代 (5)、60才代 (1)

⑤ その他お気づきの点があれば、ご記入ください。

■ テーブルの並べ方など、前回と違って、発表するのにイメージを作っていたので、とまどった。

■ 一人ひとりの発表の時間を細かく制限してくれていたのが、スムーズに流れていくことができたと思います。質問する方も答える方も手短かにわかりやすく話す練習にもなったのではないのでしょうか。

■ 中間発表会なのに最終報告を聞いているような気のする団体もいたように思いました。

■ 1回限りの資金から、来年、再来年とどうつないでいくのか考えて行かなくてははいけませんね。横の繋がりがあんまりないですね。

■ 今日初めて偶然視界に入り込んだ主題のために参加させてもらったのですが、サポートセンターのお世話により学ばせて頂いたことに感謝します。

■ あまり形式にこだわると内容が流れ、重大な認識が薄れる。

■ 勉強になりました。ありがとうございました。

■ お疲れ様でした。

■ 前回の審査会をふまえ、席の配置や運営方法に工夫が見られました。ひとつひとつ良くなっていると思います。運営委員の皆さん、市民活動サポートセンターの皆さん、市役所の皆さん、お世話様です。少し残念だったのは、一部団体の方が、他団体の発表や質疑を聞かずにずっと自分たちで話をしてたこと、必要以上に対立する話し方をしていた人がいたこと。お互い気をつけて、市民としてのマナーも向上していきたいと思っています。

■ 平田団地は良かった。

■ いろいろな立場の方々が、それぞれの立場から地域社会を住みやすい住みたい町にしようと創意工夫されていることに優しさと元気をもらえました。

まちづくり活動 相談コーナー



活動をもう一工夫したい。想いをカタチにしたい。そんなとき、お気軽にご相談ください。まちづくり活動に関する情報の提供ができます。高知県技術士会地域部会や(社)高知県建築士会まちづくり研究会とも連携し、各専門家へもつながります。詳しくは高知市市民活動サポートセンターまで。



だれでも気軽に集える素敵なカフェ

「まちづくりトークCafe」をご存じ?

高知市市民活動サポートセンターでは、毎月1回「まちづくりトークCafe」を開催しています。このCafeは誰でも自由に参加できるカフェ風のサロン。Cafeのメニュー(つまりテーマ)は、誰もが提案できるシステムです。参加費はもちろん無料!! 飲み物とお茶菓子を囲みながら、和やかな雰囲気の中で、楽しく気軽に語り合ってみませんか。

メニュー提供者も大歓迎! この「まちづくりトークCafe」からたくさんのアイデアとネットワークがうまれています。

これまでのメニュー

・まちづくりの現状と課題
・まちづくりの未来
・まちづくりの未来
・まちづくりの未来





“まちづくり”って、 そういうことだったんだ！

ひとりから始める 自分・まち育て

2月29日(日)、地域におけるまちづくり活動の第一歩を考える講座が高知市の主催で行われました。講師は「NPOまちの縁側育み隊」(名古屋市)の理事長で、住まい方やまちづくりを通して、地域コミュニケーションの大切さをソフトな語り口で啓発している延藤安弘さんです。

2台のプロジェクターを見事に操り、スライドショーならぬ「幻燈会」で、「高齢者がこんなにさびしいところにおったらアカン」のつぶやきから始まった「縁側サミット」(鈴鹿市)の事例や、「ま

ちのタカラさがし」から住民提案の博物館「絵金蔵」実現へと“まち育て”真っ最中の高知県赤岡町の事例など、全国の“まち育て”の事例とその考える視点を紹介していただきました。

今日、いろんな場面で使われるようになっている“まちづくり”ということばですが、延藤さんは結果として建物などのモノができるようになったとしても、目指したい、大切にしたい“まちづくり”について、次のように語りかけています。

人も育ち、自己也育ち、周りも育ち、 まちも育っていく “まちづくり”



「しなやかな発想で、お金を使わなくても、自分たちのまちのタカラを発見し、磨き続ける。ものをつくるのがまちづくりではなくて、人と人が切れ切れになっているのを連携することがまちづくりである。人の豊かなはぐくみと、まちの豊かなはぐくみが人も育ち、自己也育ち、周りもまちも育っていく。それがこれからの目指したいまちづくりの姿ではなからうか。

まちづくりは大きなものをつくったり、自治体や専門家から何か提起されるのではなくて、一人ひとりの心の中に個性ある「こんな生き方したい」「こんなまちにしたい」という、ひとりから、“私”から始める“私発”の思いが創造的まちづくりの原点・源泉ではなからうか。しかも、それらがばらばらではなくて、お互いに一緒にやっていると

けんかもするけれども、けんかもエネルギーにしながら、一人ひとりの力が、1+1+1が3ではなくて、4にも5にも10にも、30にもなっていく。違う力を寄せ集め、お互い汗をかきながら、楽しみ合いながら、“私発”から“協働”の過程をふむ中で、まちづくりの出会いがあり、元気をなくしている地域に「お互い元気に生きよう」という“元氣”。そんな一人ひとりが元気になる、まちが元気になる、その元気がまちづくりではなからうか。

“私発協働(しはつきょうどう)”というのはどの地域にあっても、どんなテーマであっても、これから目指したい重要な考え方の基本で、一人から始まる自由なる活動のベース、振る舞いで、これから、総合的なまちづくりができるのではなからうか。」

各地域から来られた約80名の皆様からは、「人と人との出会いを大切に、いい物を残し、いかに活用するかが大切だと教えてもらった」「自主防災や高齢者の方の安否の確認を検討していきたい」「一人ひとりが声を掛け合って協力すれば一歩進むし、なんとかなると感じた」「横のつながりを作って、自分の知っていることを伝えたいし、他の人も活かす方向へ行くための行動をしたい」など、“私発協働”の思いを強くされた感想をいただきました。

(文責：中平 多香子)

中間発表を終えて

運営委員長 卯月 盛夫

本日は第1回の中間発表ですから、この制度ができてから、まだ半年しかたっていないわけですが、しかし、半年でこれだけの成果があるというのは、大変な驚きです。

「さて感想ですが、『目に見える成果』がいくつかあったことが印象的です。1つ目は、「炭焼き小屋」です。もちろん、それまでずっと準備活動をしてきて、最後のところでこのファンドの資金を使ったという、非常にタイムリーだったというようなこともあり、もう建物ができってしまった。すでに何回かイベントもやっていたらっしゃるといって大変驚きました。佐竹さんには申し訳ありませんが、あの炭焼き小屋はみんなのものだ」という感じがします。あの炭焼き小屋をお借りして、ここにお集まりのいろいろなグループが活動をやったかどうかと思います。ここを市民が最初につくった拠点として、是非利用してほしいと思います。

目に見える成果の2つ目は、「よんどく!?」です。これももちろん、それ以前からずっと活動をしてきて、タイムリーにこのファンドに乗ったということがありますけれども、この本の後ろを見ていただきますと、「この事業は、公益信託まちづくりファンドの助成を受けています」と書かれています。これが普及することによって、この本の中身だけではなく、まちづくりファンドもまた普及していくことになりそうです。そういった意味でも、これは目に見える大きな成果です。目に見える成果の3つ目は、「トラック」です。こういうのも実は高知スタイルなんだな、と思うようになります。『炭焼き小屋』も『トラック』も、市民みんな

なものだと思いませんか！ 他のまちづくりのグループも「ちょっと貸してください」と言って、使ってもらいんじゃないかと思えます。そう考えると、あのトラックのボディにも「公益信託まちづくりファンドの助成で買いました」と一行書いておいていただくと、宣伝にもなると思います。そう、炭焼き小屋の入り口にも是非、書いておいてください。

それから予想外に成果があったというようなことが幾つか報告されたと思います。平田団地のグループが寄付を集めたときに予想外に集まったとか、「よんどく!?」のグループで再編集するときに、子どもたちから3倍の原稿が集まったとか。トマトの会も予想外の成果で、100%が満足だったということでした。本当は、予想外じゃないのかもしれないけれど、これは本当にうれしい話です。特にトマトのグループは、5万円というわずかな助成金にもかかわらず、かけがえのない人のネットワークの輪が広がったということは、聞いていて大変うれしかったです。

とはいえ、いくつかの課題も報告されたと思います。最大の課題は、なかなか広報がうまくいかない、人が集まらないということでしょう。ただ、それとは全く逆に、こうやってうまくいったという事例もあるので、今後は是非議論していきたいと思えます。

PRということでは、「ハート・リンク」が持っているスキルに期待をしたいです。広報と交流という視点から、このファンドを支えるデジタルの基盤づくりを少しお手伝いしていただくようなことができれば、次のステップに輪が広がっていくと思います。

いずれにしましても、本日の中間発表はまさに、最先端のまちづくりの勉強会、シンポジウムに匹敵するものだったと思っています。みなさん、どうもありがとうございました。

まちづくりファンド今後の予定

最終発表会・公開審査会はどなたでも参加することができます。助成を受けた団体間や関心のある方の交流の場としていきたいと思えます。お気軽にご参加ください。

場所は高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

- 第2回応募用紙配布 平成16年4月27日(火)～
- 第2回応募期間 平成16年5月25日(火)～6月19日(土)
- 第1回最終発表会 平成16年7月31日(土)
- 第2回公開審査会 平成16年8月1日(日)

まちづくりファンドは、皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設に当たり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆様のご寄付をお願いいたします。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社四国銀行
営業統括部 信託担当

〒780-8605
高知市南はりまや町1丁目1-1
電話：088-823-2111(代表)
088-871-2178(直通)
FAX：088-824-0431

高知市市民活動サポートセンター

高知市が市民に利用してもらい、市民活動の輪を広げようと平成11年4月に設置した施設です。運営を特定非営利活動法人「NPO

高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催しておりますので、お気軽にご活用ください。

まってま〜す!



まちづくりファンドのニュースや応募、公開審査会に関するお問い合わせは、下記高知市市民活動サポートセンターまでご連絡ください。次回の発行は、最終発表会の後になります。

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
TEL：088-820-1540 FAX：088-820-1665
E-mail：npokochi@siminkaigi.com
【URL】http://www.siminkaigi.com